

令和3年度 香川県特色ある体力づくり推進学校

三豊市立勝間小学校 <児童数 159人 8学級>

推進上の課題

- ▲ 色別の縦割り班活動を行っているが、活動が単発的で児童の仲間意識の高まりや競争意識があまり見られず、活動がマンネリ化している。
- ▲ 体力テストの結果から、投力が弱くソフトボール投げの記録が依然として課題である。ドッジボール・ドッチビーなどの貸し出しは行っているが、使う児童が固定化している。また、外遊びがサッカーか鬼ごっこ等の遊びが中心となっているので、投げる運動を日常的に行う環境づくりが必要である。
- ▲ けが防止のために、柔軟性を高めることが大切である。そのために、準備体操の中で体幹や柔軟性を高める体づくりの運動を積極的に取り入れる必要がある。

重点目標と全体計画

- 【重点目標】**
- オリンピック・パラリンピック教育の推進を通して、運動に対する意識を高め、意欲化を図る。
 - 全学年、日常の活動や準備体操の中に柔軟性を高める運動を意識的に取り入れる。
 - がんばりカード（マラソン・なわとび）を活用し、練習意欲や技能、競争心を高める。
 - 異年齢集団の活動を通して、協力・交流・協調する力や態度を育成する。
 - 放課後スポーツクラブの練習内容の充実を図り、自分の体力を高めようとする児童を育成する。
- 【全体計画】**
- 色別対抗(縦割り班)による各種校内大会
 - ・色別対抗リレー 4月～3月（通年）
 - ・校内水泳大会 6月
 - ・校内マラソン大会 12月
 - ・校内なわとび大会 2月
 - 走力を高める体力づくり
 - ・朝の自主マラソン 4月～3月（通年）
 - ・マラソン世界記録に挑戦（上高瀬小学校・下高瀬小学校と3校合同開催） 12月
 - ・なわとびランキング（長なわ・短なわ） 12月～3月
 - オリンピック・パラリンピック教育の充実

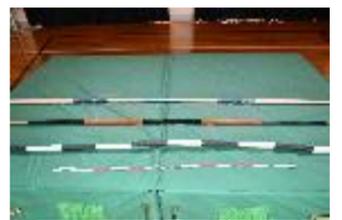
・色別対抗校内大会（リレー・水泳・マラソン・なわとび）	全学年	・マラソン世界記録に挑戦	全学年
・オリンピック・パラリンピック調べ学習	全学年	・I'm POSSIBLEを活用しての授業実践	3～6年
・パラリンピック種目ボッチャ体験	3～6年	・パラリンピアンによる講演会	5・6年
 - 放課後スポーツクラブの充実（4年生以上全員参加による体力づくり）
 - ・1学期 陸上・水泳
 - ・2学期 陸上・マラソン
 - ・3学期 陸上・なわとび

体力づくりの取組状況

- 【教材・教具や場を工夫した体育・保健体育の充実】**
- 走り高跳びの指導
 - ・ スタンドの作成
のぼり用のポールを活用してメモリ付きスタンドを作成した。
 - ・ クロスバーの工夫
クロスバーを平ゴムに代えることで、失敗したときの痛さや高さへの恐怖心を取り除いた。
 - ・ 「見エール君」を活用した練習
フォームチェックのポイントや中央で跳ぶことを意識させるために工夫した。
 - ・ 積極的なICT機器の活用
追っかけ再生のソフトを使って、自分の跳び方のフォームをチェックした。
 - マット・跳び箱運動の系統的指導
 - ・ 「わたしたちの体育」のマット・跳び箱運動に関するページを体育館に掲示している。



自作スタンド



工夫したクロスバー



「見エール君」の活用



ICT機器の活用

- 【始業前や休み時間、放課後等を利用した体を動かす機会の設定】**
- 朝の自主マラソン
4月から3月まで（6・7月は除く）年間をとおして、登校後運動場を走る。
 - スポーツタイム（毎週金曜日8:15～8:30）
色別対抗リレーや長なわ8の字跳びに挑戦する。
雨の日は、オンラインを使って教室でストレッチ体操を行っている。
 - 全校遊び
児童会や6年生が中心となって、昼休みに全校遊びの時間を設定している。
 - 放課後スポーツクラブ
放課後スポーツクラブは、4～6年生全員の参加による水泳と陸上練習を行っている。
水泳は、地区記録会が廃止になったので、4泳法が泳げるようになることと50m以上泳げるようになることを目標としている。
陸上は、地区記録会に参加することや各大会に出場し好記録を残すことを目標としている。



スポーツタイムの様子



全校遊びの様子

【意欲的に取り組める行事の工夫】

- オリ・パラ教育の推進
 - ・ オリンピック・パラリンピックの聖火リレートーチを活用した授業実践。
 - ・ パラリンピック競技のボッチャを体験し、パラアスリートの技能の高さを実感するとともに障害者への理解を深めた。
- マラソン世界記録に挑戦

平成30年度から、全校生と全教職員全員が参加し、ひとつのバトンをつないで42.195kmを走り、世界記録の2時間1分39秒に挑戦している。

令和2年度は、下高瀬小学校とオンラインで結び、同時刻にスタートして、タイムを競い合った。令和3年度は、上高瀬小学校も参加し3校合同での実施予定である。

全員でバトンをつなぐことで、団結力を高めることができた。また、下高瀬小学校との対戦形式としたことで、朝の自主マラソンや正課体育でのマラソン練習にも意欲的に取り組むことができた。
- なわとび教室

二重跳びができない低学年の児童を対象に、5・6年生が豆先生となって、昼休みになわとび指導を行っている。期間は5日間で、最終日に記録に挑戦させることで「できるようになった喜び」と「できるようにさせた喜び」を味わわせ、なわとび練習への意欲化を図っている。



トーチを活用した授業風景



ボッチャ体験の様子



マラソン世界記録に挑戦の様子



なわとび教室の様子

【成果】

- 朝の自主マラソンを中心に、色別対抗リレー、色別対抗マラソン大会、マラソン世界記録に挑戦を行っているので、走ることへの抵抗感をもっている児童はあまりいない。
- 色別対抗の縦割り班で競い合うことをとおして、競争することの楽しさ、勝ったときの喜びや負けたときの悔しさを味わうことで体力づくりへの意欲化を図ることができている。
- オリ・パラ教育を中心に体力づくりを進めてきたので、児童のオリンピックやパラリンピックへの興味関心を高めることができた。

【課題】

- 走力を身に付ける体力づくりが中心で、投力や筋力を高める取り組みが十分に行えていないので、鉄棒から転落したり補助倒立ができなかったりする児童がみられる。
- 東京オリンピック・パラリンピックが終了したため、オリ・パラ教育に対して子どもたちの意識の低下が見られる。
- それぞれの体力づくりの取り組みに対して、積極的に取り組む児童とそうでない児童がいるため、体力の二極化がみられる。休み時間や昼休みに積極的に屋外で活動する児童を育成する必要がある。

成果と課題